

科目名	理学療法学概論			ナンバリング	ZSF137	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	Goh Ah-Cheng	担当教員	○Goh Ah-Cheng				

授業の概要	理学療法学、理学療法士の基本的概念、歴史的背景、対象者のとらえ方、医療現場での理学療法実施の紹介、理学療法の方法としての情報収集、評価、問題の把握、計画の立案、実践、成果の確認及び再評価の流れの意味等、理学療法の方法について体系的に学ぶ。 また、医療現場における理学療法士の専門性及び専門技術や他の医療技術職との違いについて学び、理学療法士としてのアイデンティティの基盤と心構えを学び、理学療法士に求められるヒューマンイズムと倫理観を養う。						
到達目標	①応用科学としての理学療法の方法の基本的概念、歴史的背景、対象者のとらえ方、医療現場での理学療法実施の紹介、理学療法の方法としての情報収集、評価、問題の把握、計画の立案、実践、成果の確認及び再評価の流れの意味等、理学療法の方法の基礎知識の範囲を理解できる。 ②理学療法の方法の定義、目的、を他職種との連携から理解し、理学療法の方法の発展、科学的根拠、体系化を理解する。 ③健康・医療の積極的担い手として地域社会における医療専門職の業務を自覚し、チーム医療の構成とそれぞれの役割を理解する。 ④国際社会における我が国の理学療法の方法の現状を知り、医療の国際協力の在り方について自ら考えることができるようになる。 ⑤新生児から障がい高齢者までを対象とする職業人として、豊かなヒューマンイズムと倫理観を養い、協調、協働の中から理学療法の本質を理解する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	①理学療法の方法の周辺領域の歴史的背景に興味を持ち、その接点を考える。 ②医療ボランティアの機会を活用する。 ③先進医療の情報に敏感になる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】						
	○	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。				
	○	2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。				
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の方法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。				
	○	4	健康・医療に関わる理学療法の方法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。				

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①理学療法の方法の定義が言える。 ②チーム医療の中での理学療法の方法の役割と理学療法の方法士に相応しい人間性と倫理観について理解する。 ③障がいを持つ人に躊躇なく手を差し伸べられる。	①理学療法の方法の定義を言え、その内容を第三者に説明できる。 ②チーム医療における理学療法の方法の役割と理学療法の方法士に相応しい人間性と倫理観について理解し説明できる。 ③障がいを持つ人に躊躇なく手を差し伸べるための知識と技術の必要性を理解する。 ④理学療法の方法士になりたいと他者に明言できる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	●						20%
授業態度・授業への参加		●	●	●	●		80%

課題、評価のフィードバック	manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	-------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	医学と理学療法の歴史	有史以来のヒトとケガや病気に対する癒しの方法を紹介し、物理的手段の応用の歴史を解説する。産業革命、戦争を契機とした理学療法の発展の歴史を紹介する。	
	第2回	理学療法の組織	専門職組織として、各都道府県単位の理学療法士会、地方ブロックの組織、全国組織としての公益社団法人日本理学療法士協会、アジア・オセアニア理学療法学会、世界理学療法連盟などを紹介する。併せて、専門別部会についても触れる	
	第3回	理学療法の定義	公益社団法人日本理学療法士協会と世界理学療法連盟の定義を紹介し、定義に含まれる内容について解説する。	
	第4回	理学療法士の仕事	医療福祉機関、地域、企業、スポーツ現場、教育研究機関などでの理学療法士の活躍を紹介し、それぞれの職場における課題と将来展望を解説する。	
	第5回	チーム医療の構成	他職種連携によるチーム医療の現状を紹介し、理学療法士の役割と倫理観を理解する。さらに、チーム医療で求められる人間性と倫理観を学ぶ。	
	第6回	地域社会で活躍する理学療法士	地域医療、在宅医療における理学療法士の仕事を紹介し、健康増進政策、災害援助、生活習慣病予防事業へのかかわりを紹介する。	
	第7回	世界の理学療法	先進諸国の理学療法を紹介し、併せて、開発途上国援助、国際災害援助の可能性についても紹介する。	
	第8回	まとめと評価	理学療法全般にわたる知識の整理と理解度を確認する。	
	試験	筆記と口頭試問を実施する。		
授業の進め方		①対面型授業は1/3～1/2にとどめ、少人数制のグループワークを活用する。 ②フィールドワーク課題を設定しまとめと発表を促す。		
授業外学習の指示		①国内外の文献抄読。 ②日常生活観察記録の作成。 (授業外学習時間： 毎週 220 分)		

教科書	「理学療法概論第6版」 奈良 勲 著 (医歯薬出版) 定価5,900円(税別) ISBN:978-4-263-21415-2
参考書	「Introduction to Physical Therapy」 Michael A. Pagliarulo (Elsevier) ISBN-13: 978-0323328395
参考URLなど	「公益財団法人 日本理学療法士協会」 https://www.japanpt.or.jp 「World Confederation for Physical Therapy」 https://www.wcpt.org
その他	